



兒玉良則在ホノルル日本国総領事歓迎会 ウェルカム・ランチオン開催

出席者全員で手を繋ぎ、歌を歌ってハワイ式に親交を深めた



出席者らと親睦を深める兒玉総領事



記念品としてアロハシャツを贈呈



キズナコミュニティの幹部らと兒玉総領事(前列右から5人目)

兒玉良則在ホノルル日本国総領事の着任を歓迎するウェルカム・ランチオンが、11月30日、ハワイ日本文化センターで開催された。会場のボールルームには日米協会、キズナコミュニティの関係者ら約200名が出席。バイキング形式のランチに和太鼓や琉球舞踊などのパフォーマンスが催された。

10月に着任した兒玉総領事は、東大法学部卒業後、1990年に外務省入省。その後、在英大使館二等書記官、外務

大臣秘書官、パリオECD日本政府代表部一等書記官、在カンボジア日本大使館参事官、在マレーシア日本大使館次席公使、在ベルギー日本大使館公使、NATO日本政府代表部の公使などを歴任。在ホノルル日本国総領事着任前は、ASEAN日本政府代表部次席公使を務めた。

ウェルカム・ランチオンでは、兒玉総領事の来場に出席者全員が拍手で出迎え、歓迎のパフォーマンスとして、

RYUGEN TAIKOによる和太鼓演奏と NAKASOME DANCE ACADEMYによる琉球舞踊が披露された。

ホノルル日本商工会議所のクリスティ・インキネン・ヤナギハラ氏は歓迎の挨拶で、「約30のグループで組織されるキズナコミュニティは日本・ハワイ間の文化交流や経済発展などを通して友好関係の発展を目的としている。今後、コミュニティとして兒玉総領事を様々な面でサポートできることを嬉しく思う」と話した。

その後、兒玉総領事が壇上に立ち、ハワイの日本の関係者らによる歓迎に感謝を述べた。また、「過去10年間、主に仕事をしてきた東南アジア各国で、計画、開催される交流プログラムには常にハワイの名前があり、ハワイと日本との関係の深さを実感していた」と語り、「総領事として、日本・ハワイ間の友好関係の

長い歴史を継承し、さらに親善を深めることを第一の目標としたい」と抱負を述べた。

ランチの前には、ハワイ日米協会のレイナ・カネコ氏の乾杯の音頭と、本派本願寺僧侶のトシユキ・ウミタニ氏による食前の祈りが行われた。午後は、ハナヤギ・ミツスミ氏、フランシス・ナカチ・クバ氏によるダンス、ハーブ・オオタ・ジュニア氏によるウクレレ演奏が催され、兒玉総領事に記念品のアロハシャツが贈呈された。最後に、出席者全員が手を繋いで輪になって歌を歌い、ホノルルジュニア日本商工会議所のアーロン・ムラキ氏の手締めで閉会した。

出席した70代の男性は「新しい総領事を歓迎するとともに、徐々に多くの仲間と交流ができ、とても有意義な時間を過ごすことができた」と話した。

(取材・文 佐藤リン友紀)



日本酒で乾杯



ハナヤギ・ミツスミ氏、フランシス・ナカチ・クバ氏の舞踊パフォーマンス



NAKASOME DANCE ACADEMYによる琉球舞踊



ハーブ・オオタ・ジュニア氏によるウクレレ演奏



RYUGEN TAIKOによる和太鼓演奏